

東京・奈良・大阪でウズベキスタンセミナー開催

2月15日に東洋大学井上円了ホール、2月17日に奈良大学講堂にて、平城遷都1300年記念特別事業として「日本・ウズベキスタン国際シンポジウム ウズベキスタンの古代文明及び宗教-日本文化の源流を尋ねて」が開催されました。東洋大学、奈良大学、ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金、駐日ウズベキスタン共和国大使館、ウズベキスタン共和国科学アカデミー、日本・ウズベキスタン仏教遺跡（カラテパ）発掘調査団主催の大規模な国際シンポジウム。東洋大学のホールにはシルクロードに縁が深い故平山郁夫画伯の絵が幕一面に描かれ、その中でシルクロードを渡った仏教の神髄、日本文化の源流や発達にも影響を与えた仏教がウズベキスタンにも非常に関わりを持っていることなどの講演、という貴重な機会でした。ウズベキスタンはイスラム教国ですが、仏教を非常に大切にし、共存させています。「仏教」をテーマにウズベキスタンを訪れるのも、興味深い企画の一つとなるでしょう。



東洋大学で講演された加藤九祚氏、EVルトゥヴラゼ氏

2月18日にはJATA、駐日ウズベキスタン共和国大使館主催で「ウズベキスタン観光セミナー」が大阪・天満研修センターにて開催されました。このようなセミナーを大阪で開催したのは初の試み。ウズベキスタンの仏教遺跡発掘で有名な国立民族学博物館名誉教授の加藤九祚先生、ウズベキスタンから来日されたウズベキスタン共和国科学アカデミー会員ルトゥヴラゼ先生は健康上の理由でセミナーでの講演は残念でしたが、カラマトフウズベキスタン共和国駐日大使をはじめ、駐日ウズベキスタン共和国大使館、ウズベキスタン国営航空、ウズベキスタン政府観光局各々が、DVDや写真を使用しての観光分野からみたウズベキスタンを紹介。日本とウズベキスタンの古くからの強い繋がりを旅行商品の素材の一つとして生かすことにより、日本とウズベキスタンの観光における発展が活発化されることと思います。

3月21日はウズベキスタン最大の行事「ナウルーズ」

3月21日は、ウズベキスタン最大の行事「ナウルーズ（NAVBUZ）」の日です。ウズベキスタンもこの日は祝日でお休みです。ナウルーズの歴史は200年以上前から続いています。ゾロアスター教の農民の祭りが起源と言われ、中央アジア全域ではイスラム教の新年という意味でお祝いがされています。

ナウルーズの為に色々な料理、小麦から作られるスラムクという料理やサムサなどが準備され、食卓に並べられます。タシケントの独立広場をはじめ大都市などの多くの広場で大きなコンサートもあり、民族衣装を着た人々や伝統的なダンスも見られます。街には露店も出て、賑わいを見せます。

歌や民族舞踏はもちろんのこと、柔道に似たウズベキスタンのスポーツ「クラッシュ」や、地方では鳥や羊の闘い、ブズカシという競技も行われます。ブズカシは、頭のない子羊や山羊の死体をボールとして、ある地点にタッチダウンするラグビーに似ているゲームです。

春の風の中で木や花が咲き、新しい年が来たことを家族や親戚でお祝いするウズベキスタンにとっては非常に大切な日なのです。



ナウルーズを祝う民族舞踏



ウズベキスタン政府観光局

ウズベクツーリズム代理事務所



〒105-0014 東京都港区芝 2-31-15 北海芝ビル 6F 株式会社 AJT 内 担当: 正岡

TEL: 03-3456-0452 FAX: 03-3456-0454 E-MAIL: tyo@uzbjp

業務時間: 10:00~17:00 (一般の方は電話・メールでのみ受付)